

防災訓練に緊張感

宮坂建設工業
住民らが参加



ハンカチで口をふさぎ、煙の中から避難する子どもたち（12日午前10時50分ごろ、金野和彦撮影）

震を体験できるコーナーや、ボウルを使い簡易ヘルメットを作る方法などを伝える防災教室などが人気を集めた。カレーライスの炊き出しも行われた。

宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は12日、帯広市内の旧帯広南商業高校跡地（西17南5）で住民参加型の地域防災訓練を開いた。胆振東部地震が先週発

生したこともあり、午前中から大勢の親子連れや学生らが参加。参加者は身の回りのものでできる防災グッズ作りなどを行い、災害発生時の対応を学んだ。

今年で26回目。2003年の十勝沖地震を機に、住民参加型で実施している。会場内では、がれきから人を救助する訓練が公開されたほか、最大震度7の地

震の際に感じた」と話した。宮坂社長は「今年は参加者がより緊張感を持って参加しているように感じる。災害時に自らを助けられるよう意識を高めてほしい」と話していた。

（中島佑斗）

